

(対象事業：地域連携強化事業・地域文化資源整備活用事業・ミュージアム支援地域人材育成事業・国際交流拠点形成事業)

事業名：佐賀城下絵図を読み解き、まちづくりに活かそう！（第二弾）

事業者名：財団法人鍋島報効会（徴古館）

住所：佐賀県佐賀市松原2丁目5-22

TEL：0952-23-4200

FAX：0952-23-4200

HPアドレス：<http://www.nabeshima.or.jp>

連携事業者名：幕末佐賀科学技術史研究会・鍋島文化を支える会・佐賀城げんき会・プロジェクトA.S、佐賀大学都市工学科後藤研究室・NP0まちづくり研究所・森と海を結ぶ会・塚崎唐津往還を歩く会・公民館(支援：佐賀市・佐賀県)

会場：徴古館

事業期間：平成22年5月24日～平成23年1月31日



徴古館
The Museum CHOKOKAN
NABESHIMA

1. 館の使命と本事業の関係

当館は鍋島家12代直映公により「我郷文化発達ノ經由ヲ探求スル」(当館創設に際しての直映公の式辞)ため、昭和2年に創設された。現在では旧佐賀藩主・侯爵鍋島家伝来の資料を扱う地域博物館として、年4回の企画展示やイベントなどを通じ、鍋島家や近世佐賀の歴史と文化に関する情報発信拠点として活動している。収蔵資料のひとつである佐賀城下絵図は、近世初期に鍋島家によって形成された近世都市佐賀城下の町割りや建造物の位置、居住者名など詳細な情報を含む資料であり、町の姿は近世を通じて大きな変化はなく、道路や水路などの多くは現在にまで生きている。このような城下絵図は「我郷文化発達ノ經由ヲ探求スル」上で格好の素材であり、これを市民と共有し、市民と共に読み解く本事業は、地域博物館としての使命遂行に直結する。

2. 企画内容

①事業目的

城下絵図は佐賀市街地における町づくりの原型を知ることができるだけでなく、そこに表された道路や水路等の多くは今に生きている。しかし寄託先の佐賀県立図書館では人権資料とされていたため従来ほとんど公開される機会がなく、地元でも城下町に対する歴史意識が極めて薄かった。そこで本事業では、城下絵図を連携市民団体や一般市民と共有しともに読み解くことで、市民が生活現場である「佐賀城下」を認識することで、地元への歴史意識を啓発することを目的とする。地元の歴史を知り郷土への誇りを持つことで自信につなげ、今後行政と連携して歴史・文化を核としたまちづくりを推進する上で、この市民の力が強力な援護となるであろうことも念頭に置いている。

②事業概要

- (1) 連携市民団体や市民一般が城下絵図を読み解くための素材づくりが必要であるため、絵図の高精度データ化と複製パネル作製、また絵図に関連する資料として、藩士の名簿である「物成」や「早引」、藩内の諸行事における作法を記した「諸御手数帳」などといった文書類の複本を作製した。また佐賀城下の職人の手仕事を探る目的で漆工芸作品の調査を行った。
- (2) 一次資料の展示と共にこれらの複製物を提供し、読み解き成果を披露する機会として企画展「御城下絵図を読み解く」展や講演会、城下探訪会などを実施し多角的に市民に参加を呼びかけた。
- (3) 事業遂行のために連携団体の世話人や支援団体による打合せ会を計8回開催し、意思統一を図りながら事業を実施した。

3. 事業実績

(1) 事業の主な内容及び日程

- ①城下絵図および武家地の土地台帳である「屋敷帳」、町人地の住民台帳である「竈帳(かまどちょう)」をはじめとする城下関連資料を読み解くことで、佐賀城下の実態に迫る。
- (a) 読み解き作業を進める基礎となる城下絵図の複製パネルを作製した。作製にあたっては城下絵図の写真撮影、スキャニング、出力、板張り業務を外部委託し、一部を当館2Fフロアにて常時公開したほか、企画展や城下探訪会で活用した。
- (b) 武雄市所蔵、長崎歴史文化博物館所蔵、個人所蔵など、当会所蔵以外の佐賀城下絵図の調査・撮影を行い、現在知られている佐賀城下絵図を集成した。
- (c) 2種現存する屋敷帳のうち、昨年度事業で翻刻作業を行った元文5年「城下大曲輪内屋敷帳」の史料集を刊行した。
- (d) 明和8年「屋敷御帳扣」(12冊)の翻刻作業を行った。
- (e) 佐賀藩の諸行事における作法等を記した「諸御手数帳」、藩士の名簿にあたる「早引」や「物成」、「石高帳」、「諸家系図」など絵図を読み解く上で参考になる文書類の複本を作製した。
- (f) 佐賀城下の職人の手仕事を探る目的で、蒔絵師・芦刈梅吉の現存作品調査を行った。
- (g) 佐賀藩独特の間尺法を調査するため、屋敷帳・竈帳をもとに城下の計4ヵ所で現地測量、および分析を行った。
- (h) 竈帳の記載や先行研究を基に、城下町人地の復元図を作製した。

②上記の成果を市民に広く公開・還元する、または共同で実施する。

- (a) 連携：作業は基本的に8つの連携事業者(市民団体)のほか、佐賀市や佐賀県、城下の4つの公民館とも連携して実施した。
- (b) 企画展：「御城下絵図を読み解く」(会期：平成22年11月8日～平成23年1月29日)を当館で開催した。企画展では絵図の読み解き成果や芦刈梅吉の漆工芸品を紹介した。また昨年度事業および本年度事業①で作製した絵図パネルや現代地図との重ね図、スキャニングデータ、文書類の複本を来館者の利用に供した。**【入館者数:1,335名】**
- (c) 講演会：展覧会中に講演会を2回開催した。11/27(土) 野口朋子「知られざる佐賀城下の蒔絵師 芦刈梅吉」**【70名】** 1/23(土) 原田彰「幕末さが城下まちづくり構想200年」**【40名】**。
- (d) 佐賀城下探訪会・見学会：城下絵図などを手掛かりにしたまち歩き「佐賀城下探訪会」や佐賀の周辺地区に学ぶ見学会を開催した。日程・コース等は次の通り。
- 6/20(日)「からくり儀右衛門の足跡を追う」(佐賀・久留米) **【51名】** / 9/5(日) 第1回城下探訪会「葉隠ゆかりの地と御茶屋めぐり」**【106名】** / 10/10(日) 第2回城下探訪会「伊能忠敬の歩いた道」**【93名】** / 11/14(日) 第3回城下探訪会「本庄江の津めぐり」**【67名】** / 12/12(日) 第4回城下探訪会「水みち よかそこ探訪」**【111名】** / 1/16(日) 第5回城下探訪会「城下の神社仏閣」**【78名】**

(2) 参加者の数

参加者人数 延べ 1,951 人

内 訳：上記(1)のとおり。但し連携事業者間での打合せ会などは除いた、市民一般の参加数。



平成22年9月5日 第1回佐賀城下探訪会

(3) 事業により作成した印刷物等

企画展「御城下絵図を読み解く」展ポスター200 枚・チラシ 10000 部／城下大曲輪内屋敷帳(翻刻資料集) :200 部／諸御手数帳:複本6冊／早引・物成2冊・石高帳・諸家系図・諸藝師家計図複本:各1冊／佐賀城下絵図複製パネル:8枚

以上のほか当会経費により、見学会(1回)と城下探訪会(5回)の配布資料、企画展図録、芦刈梅吉作品集、城下ランチョンマップを作成し、成果の普及に努めた。

(4) 実施事業に関する新聞記事等

○新聞記事

佐＝佐賀新聞 西＝西日本新聞 朝＝朝日新聞 読＝読売新聞

佐6/9付朝刊:事業開始、西6/26付朝刊:事業開始、西8/2付朝刊:間尺調査、佐8/9付朝刊:読み解き作業本格化(間尺調査)、西8/24付朝刊:読み解き成果(田代陣基の屋敷地特定)、佐8/25付朝刊:第1回探訪会、西9/6付朝刊:第1回探訪会、佐9/6付朝刊:第1回探訪会、読9/6付朝刊:第1回探訪会、佐10/11付朝刊:第2回探訪会、西10/30付朝刊:第3回探訪会、西11/6付朝刊:読み解き成果(藩校弘道館の所在地特定)・企画展、西11/9付朝刊:企画展、佐11/10付朝刊:企画展、西11/17付朝刊:読み解き成果・企画展、朝11/18付朝刊:企画展展示資料紹介、佐11/18付朝刊:事業への期待(読者投稿)／朝11/25付朝刊:企画展展示資料紹介、朝12/2付朝刊:企画展展示資料紹介、朝12/9付朝刊:企画展展示資料紹介、読12/15付朝刊:企画展、西12/15付朝刊:城下絵図マップ作成、佐12/18付朝刊:企画展図録・芦刈梅吉作品集、佐12/20付朝刊:第4回探訪会、佐12/25付朝刊:県内文化回顧で事業紹介、佐1/1付正月号:特集「佐賀城総普請400年」で事業紹介、西1/1付正月号:特集「佐賀城築城400年夢絵巻」で事業紹介、西1/10付朝刊:連載「築城400年佐賀の夢」で事業紹介、西1/10付朝刊:城下絵図マップ作成、西1/13付朝刊:第5回探訪会

そのほか毎日新聞掲載

▲ 佐賀新聞8/25付朝刊

○テレビ、関連誌等

- (1) NHK『おはよう九州沖縄』およびNHK『ニュースファイル佐賀』「特集 古地図のデジタル化で広がる可能性」平成22年9月
- (2) 藤口悦子「市民と共に「御城下絵図」を読み解く!」『文化庁月報』11月号、平成22年11月
- (3) 藤口悦子「佐賀城下のまちづくりと近代化産業遺産群」『日本歴史』(吉川弘文館)第752号、平成23年1月
- (4) 藤口悦子「財団法人鍋島報効会の文化活動(平成22年度)」『さが文化』(佐賀県文化団体協議会)第53号、平成23年3月掲載予定
- (5) 富田紘次「佐賀城下絵図と、地域博物館における活用」『博物館学年報』(同志社大学)第43号、平成23年3月掲載予定
- (6) 富田紘次「佐賀城下絵図を読み解き、まちづくりに活かそう!」『デアルテ』(九州藝術学会)第27号、平成23年3月掲載予定
- (7) その他、企画展や城下探訪会についてNHK・サガテレビのニュースにて報道

4. 事業の成果及び今後の課題

寄託先の佐賀県立図書館で近世社会の身分制を反映する人権資料として扱われ公開・閲覧が制限・禁止されてきた城下絵図を当館で初公開した昨年度事業は、人権団体や行政への相談と意見調整から始まった。そして企画展やまち歩きを通じて城下絵図の存在が少しずつ地元に普及し、市民にとって生活現場であるこの地が「城下町である」ということが、次第に認識されていった。

これに続く二カ年目にあたる本年度事業では、第一に昨年度事業の発展的延長を目的とした。即ち城下絵図および関連資料の提示、城下町という認識や地元の歴史を知る楽しさの普及の継続である。資料の提示については企画展での展示、探訪会での資料配布のほか、別項で述べたとおり元文屋敷帳を出版した他、独自に当会経費にて企画展図録等を刊行した。歴史認識の普及については、本事業を一時的なイベントで終わらせず地元に密着して訴え続けるため、企画展の会期も昨年度より長めに設定し、城下探訪会の回数も増やした。その結果、探訪会では多い時は100名を超す参加者で賑わった。

本年度の第二の目的は、城下絵図の内容に具体的に迫ることだった。昨年度は城下絵図の存在自体が物珍しい目で参加者に眺められた部分もあったが、本年度は単にその存在を紹介するに留まらず、約6㎡の画面に1000軒近い居住者名や城下の道路・水路などを詳細に描き込み膨大な情報量を含む城下絵図の具体的な見方を提示することを重視した。単に城下絵図の存在を提示するだけでは、その珍しさや大画面のインパクトという文化財の表面に触れるだけで何となく満足し、それで市民にとっての城下絵図が終わってしまう可能性があるからである。

従って本年度は、具体的な切り口から絵図の内容に踏み込んだ。企画展では江戸時代を代表する佐賀の武士道論「葉隠」、佐賀の大名庭園「観頤荘」、肥前刀、佐賀藩校「弘道館」、佐賀城下の蒔絵師「芦刈梅吉」、佐賀藩特有の間尺などのトピックを柱に展示し、膨大な情報を含む城下絵図から佐賀のまちの歴史的魅力を無数に引き出す楽しみを市民と共有することができた。また城下探訪会でも、葉隠、伊能忠敬、水路、寺社など毎回個別のテーマを設定し、絵図と城下町佐賀の歴史の奥深さ・多彩さを現場で知って頂く機会とした。



平成22年12月12日 第4回佐賀城下探訪会

こうして城下絵図に基づいて継続的・具体的に佐賀城下の歴史を市民とともに楽しんだ本事業は、二カ年目にしてやや地元に定着してきた手応えも感じる。既に毎回の探訪会終了時には次回予約が40～50名程に達するほどに「固定客」が付き始め、企画展への県外からの来館者にも佐賀のまちを知ることができるとして好評だった。そして絵図に関する認知度と取り組みは行政にも波及し始めている。当館を運営する鍋島報効会は運営上行政が一切関与しない財団法人だが、佐賀県がスローガンとして掲げるも実際の動きが停滞していた「佐賀城下再生百年構想」が本事業をひとつの触媒として具体的に動き始め、歴史まちづくり法に拠る活動を模索していた佐賀市も、その中核を「城下」に据えて計画を進めている。また佐賀市からは城下探訪会への支援の申し出があり、また昨年度に引き続き共同で城下マップを作成するなど連携が深まっている。いずれも運営主体の垣根を越えた有難い取り組みである。

絵図を初公開したことで「佐賀にこういう資料が残っていたのか」という驚きや喜びの声が聞こえた昨年度とは違い、本年度は「佐賀にはこういう歴史があったのか」という具体的に地元の歴史を知る喜びの声が聞こえるようになった。収蔵資料を初公開して市民に受けた、という話ではない。本年度目指したことは、城下町佐賀という認識の定着と具体的な歴史を知る楽しみ方の普及であり、その目的が一定程度達成できたのは周囲の協力・支援による。連携した8つの市民団体、支援して頂いた4つの公民館や行政、参加した市民一般、そしてその機会自体を支援して頂いた文化庁に心からの御礼を申し上げたい。そして今後も地域博物館として本事業の意図に基づく取り組みを継続していきたいと考えている。